

美咲町発~全国へ 「たまごかけごはん」が今ブームに

—めざせ！卵料理でまちおこし—



美咲町が展開する「卵」を目玉にしたまちおこしは、昨年1月のスタート以来、多くのマスコミや口コミで広まり、知名度や観光資源の少なかった美咲町への人を呼びきっかけとなっています。



私たちのまちおこしは、人を呼びきっかけした。

現

在、町では、ご存知のとおり「卵」を目玉にした「まちおこし」を進めています。そして、「卵」を使ったまちづくり企画第一弾が「たまごかけごはん」専門店のオープンでした。

昨年一月二十二日、町の第三セクターが管理運営する「食堂 かもっち。」(数年間空き施設を再利用し、「たまごかけごはん」の専門店としてオープン。合併の際、公募で名付けられた「美咲町」。新しく誕生した「美咲町」の知名度は、ほとんどなく、県内外の方にとって、町の概要や範囲、観光等、多くの面で、分かりづらかったようです。

「たまごかけごはん」事業は、町の知名度アップのため、町が仕掛けたまちおこしの一環でした。「たまごかけごはん」店のオープンは、「たまご」でのまちづくりを目指そうと試行的に開店しました。オープン以来、多くのマスコミにも取り上げられ、また口コミでも広まり、現在は「黄福定食」と名付けた「たまごかけごはん」を食べに、北は北海道から南は宮崎県と、全国各地から多くの人が美咲町を訪れています。

シンプルに料理だけに素材が大切な「たまごかけごはん」。消費者に「ウケた」理由としては、もちろん安価なことも考えられますが、一番はこの家庭でも味わうことができる「たまごかけごはん」を美咲流の物語にしたこと。

また、安心・安全な町内産の食材を全面に出したことが「ウケた」要因と考えられます。

そして、誰もがわかりやすい「シンプル イズベスト」、「シンプルストーリー」で、町内にある「宝物」(食材)とそのアイデアが結びつき、「ウケた」のではないのでしょうか。

では、美咲町が作った「たまごかけごはん」のストーリーとは？

まず、「美咲町」を知ってほしいという思いから、町内産の素材にこだわった美咲流「たまごかけごはん」は、「地産地消」と「安心安全食材」を大きく掲げました。

そして大きな柱として、西日本最大級の養鶏場が町内にあり、毎日約百万個の「コクとつまみ」のある新鮮な卵が産まれていること、日本棚田百選に選ばれている棚田等では、先祖伝来の農地を荒らすまいと、農家の方の手間と愛情のこもったおいしい棚田米が栽培されていること



日本棚田百選に選ばれている美しい棚田



全国から人が訪れ、食べるまで2時間以上待つことも。「食堂 かもっち。」



と、そして、地元産の醤油をベースにアレンジした三種類の特製専用タレを開発したことです。

また、美咲町出身で卵かけご飯をこよなく愛し、旅先でも卵を取り寄せて食していた記述も残る明治時代を代表するジャーナリストの岸田吟香に着目。

岸田吟香は、日本の新聞界の草分け的存在として、また実業家としても活躍した人物で、「たまごかけごはん」を全国に広めたとも伝えられています。

観

光資源に乏しく、知名度もほとんどない「美咲町」に、果たして興味・関心を持ってもらえるのか？観光客が訪れるのか？

しかし、目立った観光ポイントがなくとも、その土地ならではの「宝」を見つけて、磨けば人はきつと呼べるはず。そして、経費をかけず「既存のもので」が、今回のまちおこしの狙いでもありました。また世間では、一昨年、昨年と今まで予想もなかったような「食」の問題が頻繁に発生し、消費者からは、食の安心安全が叫ばれています。

まさに「たまごかけごはん」は「食」の原点なのです。郷土の歴史と、誇りが多く詰まった美咲流「たまごかけごはん」。

昔懐かしい素朴な味わいは、豊かな時

「卵」

を目玉にしたまちおこしは、町内の商店、飲食店、女性加工グループにも、「卵料理」という形で「卵の輪」が広がっています。

柵原地域では、昨年四月に、町の特産品である「黄ニラ」をタレや餃子に活用した「たまごかけごはん専門店」のオープンや、和菓子屋さんが作る温かい「蒸しぶりん」、仕出し屋さんの作る厚焼き卵がメインの巻き寿司「美咲巻き」などが誕生し、現在、町内で販売されています。

また、町内の方が竹細工で二・五メートルもの巨大な卵を作成。それを町内の小学生が紙を張り、絵を書き、五つのオリジナル巨大卵が完成し、美咲町中央運動公園に設置されました。

また、「たまごかけごはんの歌」(RS K山陽放送ラジオオパールナリティー安井優子さんの歌)をもとに、旭保育園の保育士が考案した元気いっぱいのかわいらしい体操は、町内の保育園児に広がっているところだ。

小学校では、「岸田吟香とたまごかけごはん」と題しての授業が行われ、岸田吟香資料館を訪れ、地域の偉人について学んだり、町内の特産品の学習や、柵原農家の苦労話を聞いたり、オリジナルの「たまごかけごはん丼」(桜湖焼を作る小学校も現れ、私たちの町の歴史、文化、食育など、幅広い総合学習となっています。

町内加工グループの皆さんによる「たまご料理」の品評会



小学生が作成したたまごのオウジエ



町内に広がるたまごかけごはん体操

には、二十八品目の力作がズラリ。今後商品化されるもの、家庭料理として広めるもの、飲食店のメニューに加わるものに分けられるなど、「卵料理」でのまちおこし事業は、町民皆さまのご協力で一歩ずつ前へ進んでいます。

こ

つした「たまごかけごはん」やその広がりが、全国紙を初めとする新聞記事に六十記事以上、テレビ取材も全国放送四回をはじめ、関東や関西の番組、ローカルニュースなど四十番組以上、また多くのラジオや旅行雑誌などにも取り上げられています。

昨年の十一月には、NHK国際放送局のニュース番組「News Today 30 Minutes」にも取り上げられ、世界百二十カ国で放映。また、今年二月には、NHK HOJI JAPANのトップックスでも紹介されるなど、「美咲町発」の全国的な「たまごかけごはん」ブームが起きています。



NHK国際放送局が「まちおこし」の取材

美

美咲町が目指す産官連携による「卵」を通じたまちづくりは、まだまだ始まったばかりで、これから本番です。合併して四年。そして、旧三町にあった宝物がうまく融合し、誕生した「たまごかけごはん」。今後も、この「卵」が町民の元気の源に、町の活性化につながっていくよう、「美咲町名物」を活用した町のPR、特産品づくりに取り組んでいきます。